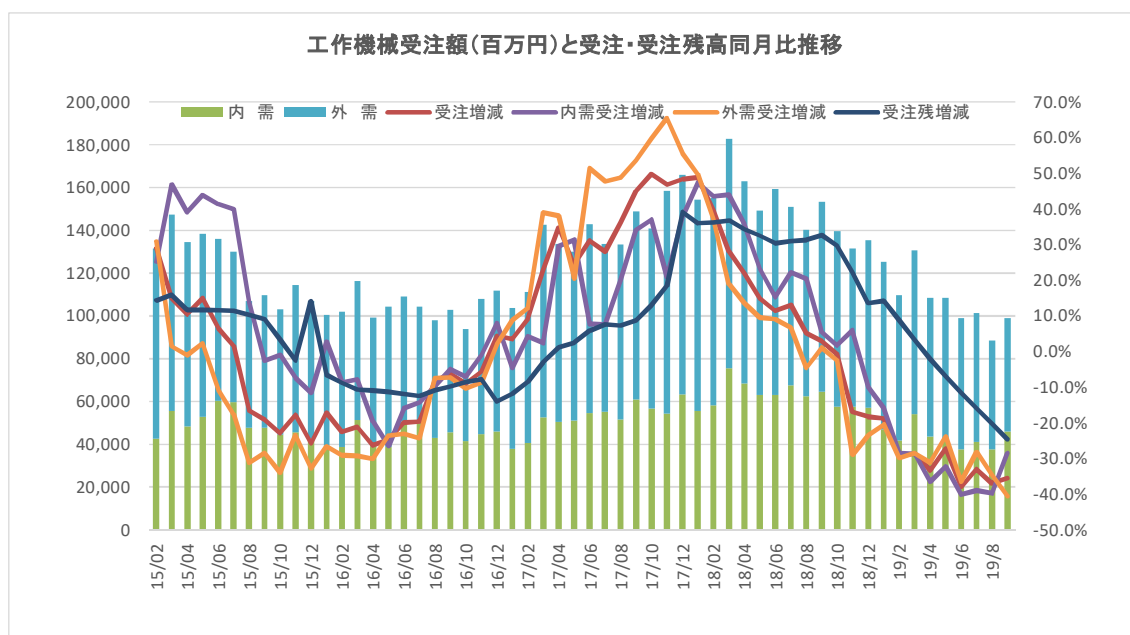


工作機械業界

受注低迷続く中で特に自動車販売減で自動車向け低迷続き受注回復は来上期に

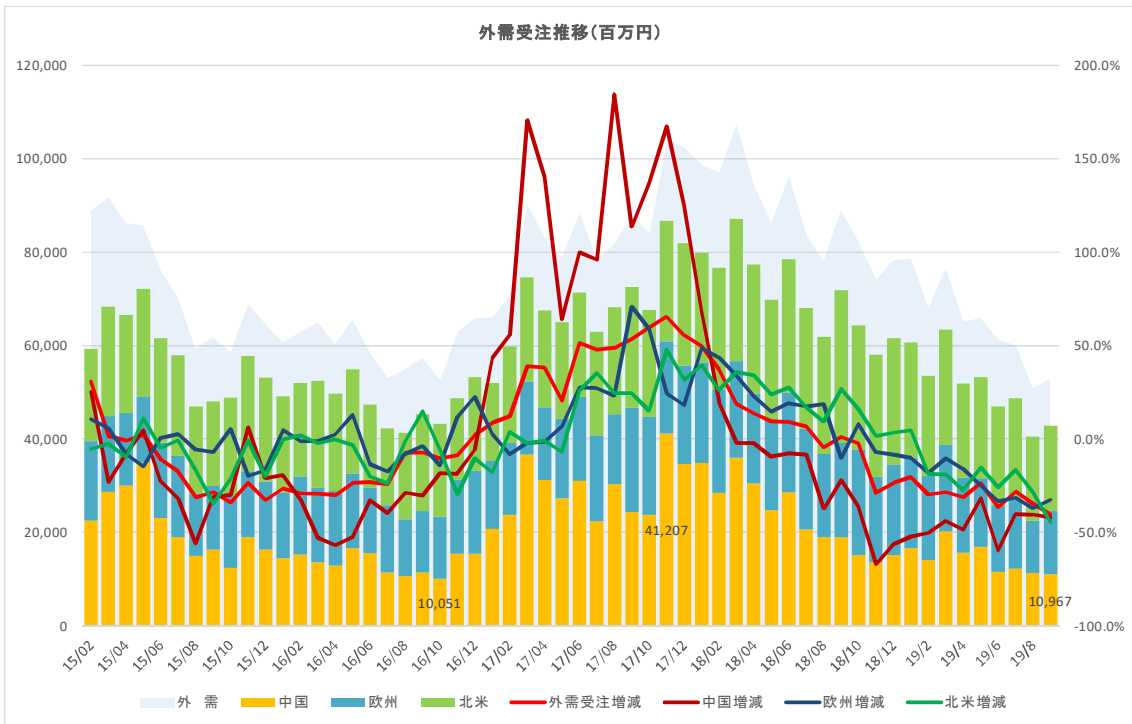
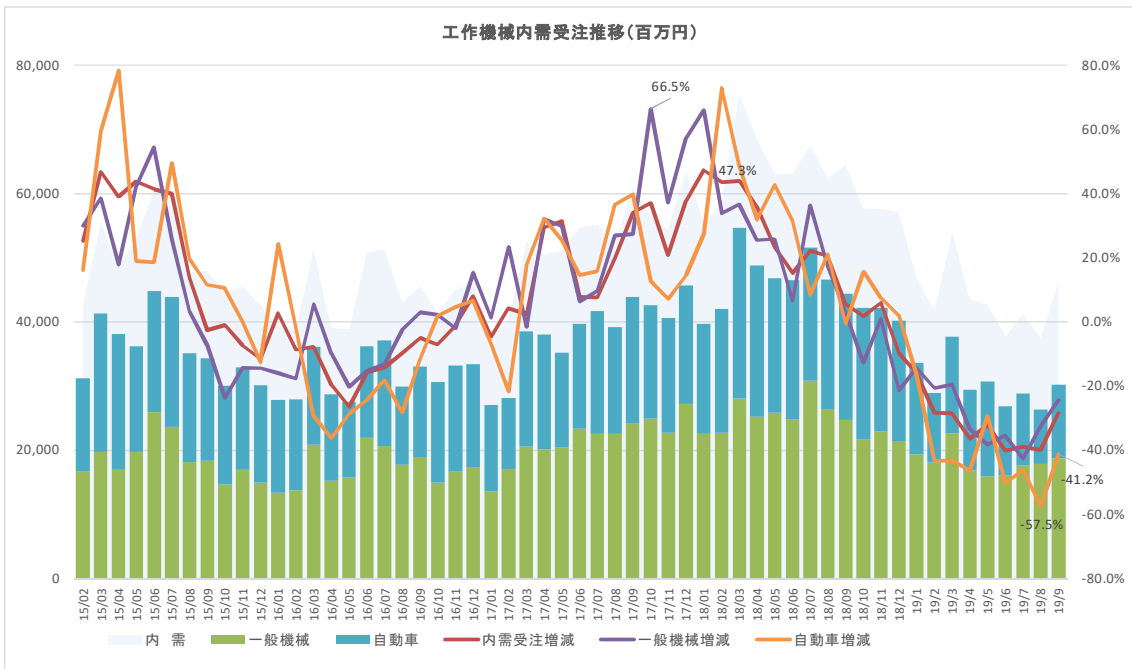
2019年9月受注は35.5%減の990億円と2カ月連続1000億円割れ

日本工作機械工業会が10/25に2019年9月の受注額確報を発表した。受注額は989.7億円（35.5%減）と12カ月連続の前年同月比割れ、2カ月連続で1000億円割れ。国内外とも米中摩擦影響を受け設備投資環境の悪化が続いている。



国内が460.7億円（28.5%減）と10か月連続の前年同月比減。上期末効果により6カ月ぶりの450億円超、前月比では22.7%増となったものの、不透明感による手控えが続いている。一般機械が24.5%減、自動車41.2%減（特に完成車向け58.7%減）、電機精密34.8%減と主力3業種の低迷が響いている。

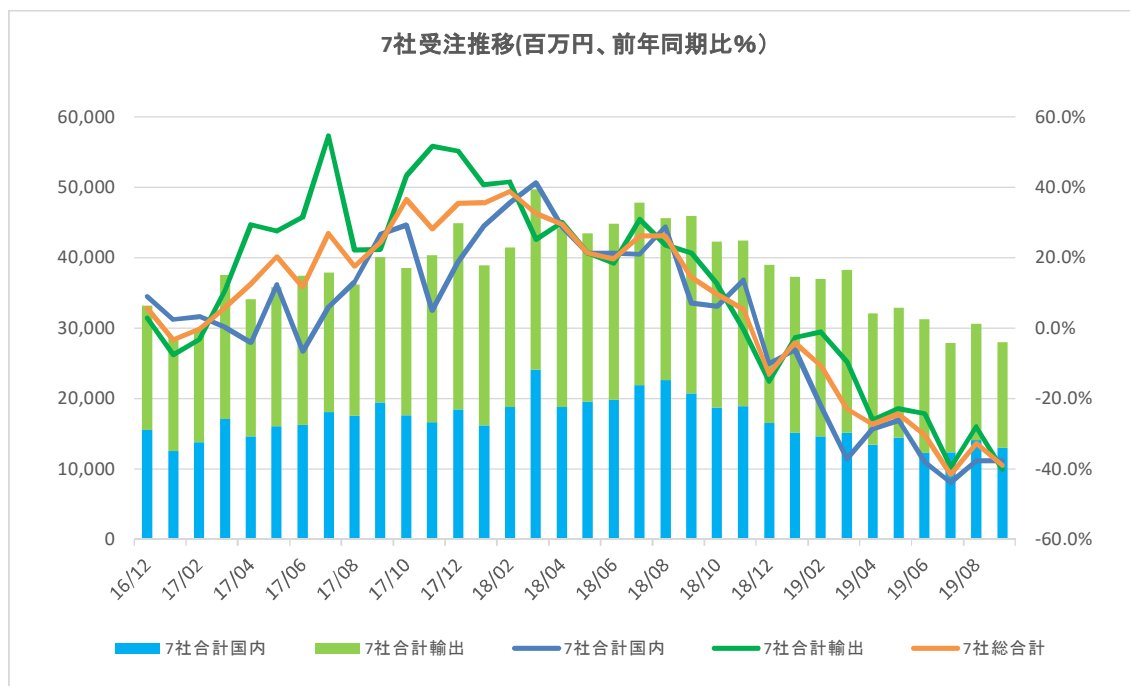
輸出は529.1億円（40.6%減）と12カ月連続前年同月比割れ、2カ月連続の550億円割れとなり、9月の550億円割れは2009年（235.2億円）以来、10年ぶりの悪い数字。なお前月比では4カ月ぶりにプラスの3.9%増も、主要3極全てで低水準。中国が景気減速、米中摩擦などから19か月連続前年同月比減で42.1%減の109.7億円と35カ月ぶりの110億円割れで今年最低となり、今後、米中摩擦激化で2016年10月の100億円を割り込む懸念も出てきた。欧州は136.0億円（32.6%減）と11カ月連続前年同月比減、欧州も中国景気減退の影響が大きく、ドイツが57.1%減、政局混迷のイタリアが48.8%減に。北米も182.6億円（44.4%減）と8カ月連続減少し、2カ月連続で200億円割れに。なお、外需の業種別で主要4業種では自動車が51.1%減、一般機械44.2%減、電機・精密45.6%減と厳しさを継続、航空・造船・輸送用機器は14.4%減も6カ月ぶり70億円超と航空機向けなど底堅い。



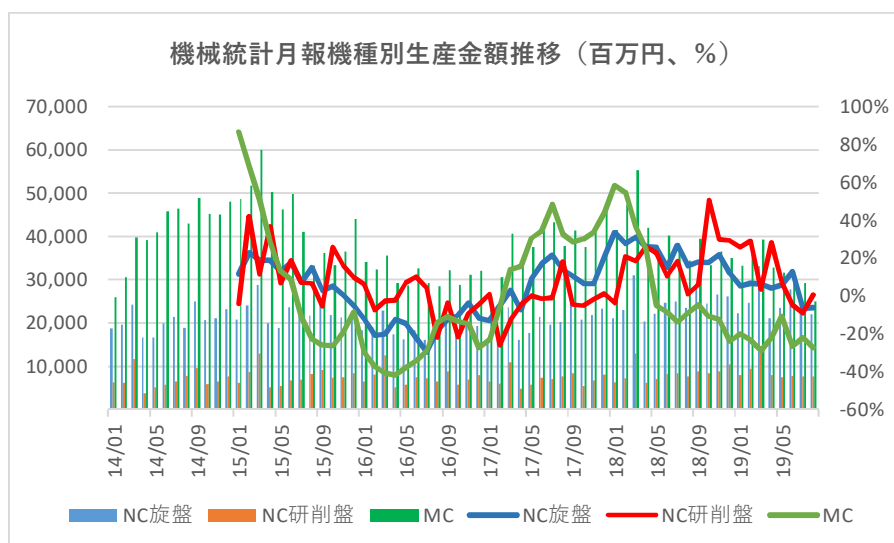
9月の工作機械販売は前年同月比11.9%減の1481億円、受注残高は前年同月比24.6%減の6287億円と、高水準の受注残を維持している。現状、リーマンショック時のような大きなキャンセル発生はないが、納期延長要請に加え、一部に仕様変更などの要求も強まり、販売額にもその状況が表れている。

工作機械各社は受注残を抱えるものの足元で総崩れ状況

日刊工業新聞で月次受注を公表している工作機械7社の推移で9月は前年同月比39.0%減の280億円となり、10カ月連続でマイナスとなった。7社全てが前年同月比マイナスで、軒並み厳しい数字となり、OKK、三菱重工工作機械は半減以下に。



機械統計月報で8月の機種別生産額推移を見ると、旋盤が2カ月連続で前年同月比マイナスとなり6.2%減、研削盤は持ち直し0.7%増と3カ月ぶりに同月比プラス、MCが16カ月連続減の27.5%減と大幅減少に。全体として受注の落ち込みが生産の伸び悩みに波及、旋盤もいよいよ力尽きた格好となった。個別機種では生産金額が小さいものの、その他研削盤（縦研削盤、芯なし研削盤等）が7か月連続で前年同月比増を続けている。



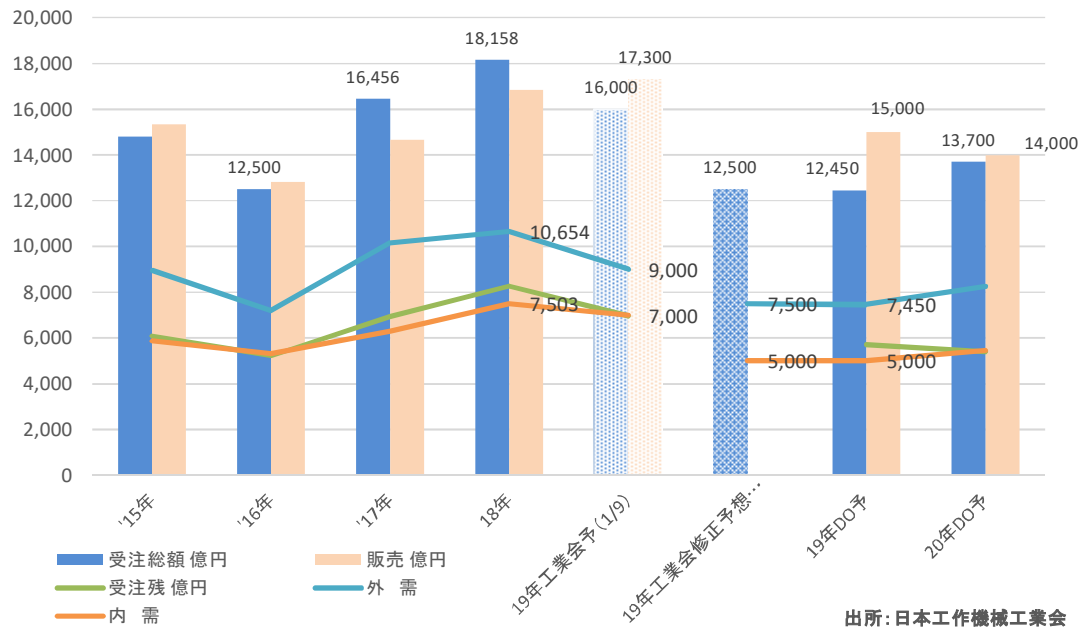
工業会が 9/26 に 2019 年見通しを 3500 億円引き下げ、1 兆 2500 億円 (31.1%減) に

米中摩擦の激化から受注回復の兆候が見られず月次 1000 億円割れの水準が続く見通しから、工業会は 9/26 に 2019 年見通しを 3500 億円引き下げ、1 兆 2500 億円 (31.1%減) とした。内訳は内需 5000 億円 (33.4%減)、外需 7500 億円 (29.6%減)。なお販売額も受注残高が適正水準維持の 5000 億円に対し約 1780 億円程度積み上がった水準ながら、納期先延ばし等の動きから減少傾向がみられ、年間 1 兆 5000 億円程度に止まる懸念が出てきた。過剰設備の中で受注急減というリーマンショック時の状況とは異なり、大きな受注キャンセルには至っていないものの、月次 1000 億円受注割れが続いており、特に自動車向けの落ち込みが厳しく、現在までに 2 月決算で工作機械関連銘柄の安川電機、3 月決算ではファナックが減額修正を発表、工作機械でも 3 月決算銘柄で上期決算発表時にオークマが通期大幅減額修正、好調を維持していた高松機械も減額修正を発表、今後も続々減額修正のアナウンスが行われる懸念が出ている。なお、業績を低く見積もりすぎていた西部電機、エンシユウは増額修正、牧野フライスは豊富な受注残高から予想を据え置き、DMG 森精機は売上高 150 億円減額ながらコスト削減などで利益増額している。

2020 年は先端半導体設備投資増や 5G 関連に期待も自動車向け回復遅れ受注回復緩やかに

2020 年は改めて工作機械受注が拡大する要素もある。半導体では先端デザインルールによる新世代 CPU、GPU、AI、5G デバイスなどがそろい踏みし、既にロジック向け投資が回復過程にあり、2020 年年明けには設備投資増強に伴う半導体製造装置受注が回復する見通しにある。また世界的に IoT などデータ需要拡大から次世代型のデータセンタ投資が復活、5G も基地局投資拡大に加え 5G 端末の発売で高機能化による受注拡大が見込まれ、電機精密向け受注が復活しよう。一方、自動車向けは自動運転対応、EV 投資が見込めるものの、足元の世界的な販売不振から設備投資の延期、見直しが相次いでおり、自動車関連の工作機械受注回復が予想以上に遅れる懸念が出てきた。最大仕向け先の自動車産業向けの回復が遅れることで、一般機械向けも間接的に自動車向け低迷の影響を受けることから、2020 年の工作機械受注は当初見通しよりも回復が遅れる懸念がある。米中摩擦で 2019 年に投資環境不透明という中で工作機械への投資先送りとなった案件は、当初見通しの年明けではなく、想定していたよりもさらに四半期後連れし、来年度上期にずれ込む見通し。2020 年の工作機械受注は来下期に IoT ソリューションビジネスの拡大などが見込めるものの、DO2019 年予想比 10%増の 1 兆 3700 億円程度への小幅な復元に止まり、受注残の消化は進むものの販売額は 1 兆 4000 億円程度と、2 年連続減少するものとみられる。なお米中摩擦の行方次第では、さらに受注回復が遅れる懸念も残っている。工作機械株は受注が前年同月比マイナス幅縮小で株価が買われることが多いものの、半導体製造装置業界が来期大幅回復見通しであるのと比較し、反発力は弱いとみられる。米中摩擦の激化があれば、再度株価下落のリスクも懸念される。

工作機械受注・販売・受注残推移・予測



業績修正発表済み銘柄(11/8現在)

	決算期	売上	前年同期比	営業利益	前年同期比	経常利益	前年同期比	税引利益	前年同期比
ツガミ	19/3上期	35,123	28.3%	5,519	64.9%	5,482	84.8%	3,091	34.6%
	20/3上期前回(5/14)	31,000	-11.7%	4,350	-21.2%			2,550	-17.5%
	20/3上期修正(10/18)	27,400	-22.0%	2,890	-47.6%			1,300	-57.9%
オークマ	19/3期	211,732	16.3%	27,575	22.6%	28,186	24.8%	18,521	30.2%
	20/3期前回(4/26)	201,000	-5.1%	24,000	-13.0%	24,500	-13.1%	16,300	-12.0%
	20/3期修正(10/30)	170,000	-19.7%	16,200	-41.3%	17,000	-39.7%	11,000	-40.6%
東芝機械	19/3期	117,405	0.5%	3,834	-17.4%	5,573	-20.2%	4,079	-18.7%
	20/3期前回(5/9)	122,000	3.9%	5,300	38.2%	6,300	13.0%	4,400	7.9%
	20/3期修正(11/8)	118,000	0.5%	3,300	-13.9%	3,800	-31.8%	2,600	-36.3%
DMG森精機	18/12期	501,248	16.7%	36,261	23.4%			18,517	21.3%
	19/12期前回(2/12)	500,000	-0.2%	36,000	-0.7%			19,000	2.6%
	19/12期修正(11/7)	485,000	-3.2%	37,000	2.0%			19,500	5.3%
エンシュウ	19/3期	30,747	31.0%	2,599	179.9%	2,266	236.2%	1,616	170.5%
	20/3期前回(5/9)	32,000	4.1%	2,100	-19.2%	1,700	-25.0%	1,300	-19.6%
	20/3期修正(11/8)	30,000	-2.4%	2,400	-7.7%	2,000	-11.8%	1,600	-1.0%
瀧澤鉄工所	19/3期	30,988	6.8%	3,117	33.3%	3,329	50.7%	1,986	44.8%
	20/3期前回(5/15)	29,000	-6.4%	2,400	-23.0%	2,400	-27.9%	1,400	-29.5%
	20/3期修正(8/1)	25,500	-17.7%	1,600	-48.7%	1,700	-48.9%	900	-54.7%
ソディック	18/12期	82,716	-	9,888	-	9,619	-	6,462	-
	19/12期前回(2/14)	76,800	-7.2%	6,900	-30.2%	6,400	-33.5%	4,700	-27.3%
	19/12期修正(8/2)	66,200	-20.0%	3,800	-61.6%	3,600	-62.6%	2,000	-69.0%
西部電機	19/3期	29,299	27.9%	3,198	49.4%	3,328	51.1%	2,283	51.4%
	20/3期前回(5/15)	22,200	-24.2%	1,480	-53.7%	1,560	-53.1%	1,080	-52.7%
	20/3期修正(10/31)	24,000	-18.1%	2,290	-28.4%	2,410	-27.6%	1,500	-34.3%
高松機械工業	19/3上期	10,532	21.3%	898	73.6%	981	91.1%	673	102.0%
	20/3上期前回(5/14)	12,672	20.3%	1,302	45.0%	1,383	41.0%	985	46.4%
	20/3上期修正(10/18)	11,410	8.3%	970	8.0%	1,057	7.7%	726	7.9%
豊和工業	19/3期	22,323	14.7%	1,038	黒転	1,108	1787.0%	1,132	570.5%
	20/3期前回(5/9)	21,700	-2.8%	800	-22.9%	860	-22.4%	750	-33.7%
	20/3期修正(10/31)	20,000	-10.4%	480	-53.8%	500	-54.9%	380	-66.4%
北川鉄工所	19/3期	60,339	7.7%	5,463	21.8%	5,932	15.1%	3,851	10.4%
	20/3期前回(5/9)	63,000	4.4%	5,000	-8.5%	5,500	-7.3%	3,900	1.2%
	20/3期修正(10/31)	61,000	1.1%	4,000	-26.8%	4,500	-24.2%	3,000	-22.2%
安川電機	19/2期	474,638	-	49,766	-	50,844	-	41,164	-
	20/2期前回(4/26)	465,000	-2.0%	46,500	-6.6%	48,000	-5.6%	35,000	-15.0%
	20/2期修正(10/30)	420,000	-11.5%	25,000	-49.8%	26,000	-48.9%	19,000	-53.8%
ファナック	19/3期	635,568	-12.5%	163,297	-28.9%	183,459	-26.5%	154,163	-15.3%
	20/3期期初会予(4/24)	536,900	-15.5%	75,700	-53.6%	84,700	-53.8%	62,300	-59.6%
	20/3期前回(7/29)	524,200	-17.5%	71,300	-56.3%	81,000	-55.8%	60,300	-60.9%
	20/3期修正(10/28)	504,500	-20.6%	69,100	-57.7%	80,500	-56.1%	57,900	-62.4%